

柳之御所史跡概要



柳之御所遺跡とは

柳之御所遺跡とは

柳之御所遺跡は、平安時代の末（12世紀）に平泉に拠点を置いた奥州藤原氏が政治を行った場所と考えられ、鎌倉時代の歴史書『吾妻鏡』に記されている「平泉館」と推定されています。中尊寺や毛越寺などの華麗な寺院や庭園跡とは異なる一面である、奥州藤原氏の統治者としての権威を今に伝えてくれる遺跡です。

この遺跡は1980年代末から一関遊水地事業などに伴い、大規模な調査が行われ、遺跡の価値が明らかになってきました。その結果、多くの方々のご協力により遺跡が保存されることになり、現在に至っています。70回を超える発掘調査によって、堀・園池・掘立柱建物・井戸などの遺構とともに、京都や海外との交流を示す土器や陶磁器などが、数多く見つかっています。保存が決定したのち、遺跡の重要性が評価され、国の史跡に指定され保護されています。また、出土遺物も一括品としての価値が高く評価され、一部は重要文化財に指定されています。

柳之御所史跡公園と出土遺物

遺跡は発掘調査の成果から検討が進められ、史跡公園として整備されています。公園では、2代基衡の終わり頃から3代秀衡の初め頃の1160年頃の様子を示しています。建物跡や池跡を表示し、また、当時の地形を復元して、当時の環境を感じることができます。

また、重要文化財に指定された遺物は1000点ちかくにも及びます。遺跡からは10tを超えるかわらけなど膨大な遺物が出土しています。

展示品には、儀式の道具として使われたかわらけや折敷をはじめ、国内産や中国産の陶磁器、銅印などの金属製品、文字資料を含む多種多様な木製品など豊富な内容をもっています。これらは、柳之御所遺跡において、人々がどのような生活を行っていたのかを今に鮮やかに伝えてくれます。

世界遺産としての平泉

資産名 平泉一仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺産群
構成資産 中尊寺、毛越寺、観自在王院、無量光院、金鶏山

平泉の文化遺産は寺院・庭園を中心に5つの資産が世界文化遺産となっています。また、柳之御所遺跡をはじめとしてそれ以外にも多くの貴重な遺産が平泉周辺には存在しています。世界遺産を生み出した奥州藤原氏の理念はこれらの現在に残された資産を通して、現代にまで伝わっています。



柳之御所遺跡史跡公園



重要文化財 岩手県平泉遺跡群（柳之御所遺跡）出土品

